

第 10 回 HALS グループミーティング開催のご挨拶

謹啓

時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

2019 年 10 月 19 日（土）に、「第 10 回 HALS グループミーティング」を日本大学病院大会議室において開催致します。

今回のテーマは、「HALS は市民権を得たか？」とさせていただきます。今までの研究会で、HALS の長所や短所について多くの議論がなされてきましたが、HALS の有用性を実感しながらも、HALS は“開腹手術と腹腔鏡下手術の間”という立ち位置的印象を与えていた感が否めないところがありました。本研究会も今年で 10 回目を迎えるにあたり、一度立ち止まり、HALS が外科手術術式の中で、繁用手技として市民権を得て将来に向けて発展して行くために、そのメリットとデメリットを整理し、周囲への広報も含めた工夫についてまとめたいと考えています。

今回の研究会のプログラム構成は、まず例年同様に一般演題として、全国の先生方の HALS/HATS 手術の工夫や経験をご発表いただき、特別企画として、テーマである「HALS は市民権を得たか？」に沿った項目（創の整容性・操作性・機器等のコスト・経過や合併症・広報の工夫・その他）を、パネリストを設けて会場参加者と共に議論し、まとめて行きたいと存じます。

参加者全員の技術や経験、工夫を結集し、HALS の将来に向けての議論がなされれば幸いと期待しております。是非とも多くの皆様方にご参加いただきますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

謹白

2019 年 4 月 25 日

第 10 回 HALS グループミーティング当番世話人

武藤 淳／福島労災病院外科